

日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 IMU分科会

更新日 2012/9/7

(2009/05/01の形式)

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際数学連合

(欧文) International Mathematical Union

(略称) IMU

日本学術会議加入年(西暦) 1952 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) The IMU Executive Committee

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Ingrid Daubechies	Christiane Rousseau	Marcelo Viana	Grötschel, Martin
(国)	アメリカ合衆国	カナダ	ブラジル	ドイツ

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

選考委員会(委員長は会長が役員の中から指名、加入団体の推薦したものの中から無作為に3名、総数7名)が、執行委員会役員名簿を総会に提出。総会では、あらかじめ推薦された名簿の中から10人以上の代表の提議により更に候補者を追加できる。総会で投票により決定。

加入国・地域の数 68 ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

日本、カナダ、中国、フランス、ドイツ、イスラエル、イタリア、ロシア、英国、アメリカ合衆国

国際学術団体のホームページURL <http://www.mathunion.org/>

国際学術団体の年間運営経費 EUR226,415.57

日本の分担予定額[事務局で記入] 1,786千円(2012年度)

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2010年	国際数学者会議	インド国 ハイデラバード市	4000	60	無
2006年	国際数学者会議	スペイン国 マドリッド市	4500	200	無
2002年	国際数学者会議	中国 上海市	4000	500	無

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2010年	国際数学連合総会	インド国 バンガロール市	64	柏原正樹、宮 岡洋一、坪井 俊、三輪哲二	3
2006年	国際数学連合総会	スペイン国 サンチャゴ市	64	上野健爾、加藤 和也、森田康夫、 柏原正樹	3
2002年	国際数学連合総会	中国北京市	60	上野健爾、砂田 利一、浪川幸彦、 楠岡 成雄、桂 利 行	3
1999年	国際数学連合理事会	ブラジル国 リオデジャネイロ市		森重文	

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

IMU Bulletin (年1回)
 加入団体への回状(月1回)
 IMU-Net(電子的 newsletter、隔月)

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

国際機関等の提唱で行った活動
国際機関等への提言等
2008-6-11, International Council for Industrial and Applied Mathematics (ICIAM), Institute of Mathematical Statistics (IMS) との共同で、報告書「Citation Statistics」を公表。数学の研究評価における引用データの利用・誤用について分析を行う。日本語訳は、 http://mathsoc.jp/IMU/ において入手可能。
国際事業等への参加・実施等
IMUの電子情報通信委員会は、WDML (世界デジタル数学図書館) 構想を推進するため、「デジタル数学図書館：その未来」とともに、「デジタル化の最良の実践」の報告書を発表。WDML構想は、Project Euclid, NUMDAM, EMIS等において少しずつ実現しつつある。
全世界的/地域的研究課題への取組み
発展途上国への対応
<ul style="list-style-type: none">・ ICM2010に100名の発展途上国からの参加者に援助。・ 報告書「アフリカにおける数学」を2009年2月に刊行。アフリカにおける数学の現状報告と数学発展の援助に関する提言を行う。

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

数学は今世紀に入り、物理学、生物学、工学、経済学等の周辺分野とのますます強くなる相互作用の中で発展しつつある。これは、ICM (国際数学者会議) の分科会の推移やIMUの新しい賞の創設の中にもあらわれている。 また、WDML構想をさらに発展されることが、これからの大きな課題の一つである。

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
副会長	柏原正樹	2003	2006
副会長	森 重文	1999	2002

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 IMU分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

日本数学会

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本数学会	約5000名	http://mathsoc.jp/
日本応用数理学会	1775名	http://www.jsiam.org/

学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名
所属分野別委員会

IMU分科会
数理科学委員会

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
小澤徹			

会員数	連携会員数	特任連携会員数
1	9	

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

IMUへの日本における代表となっている。
最近では、IMUの各種委員の推薦、IMUの加盟要請の賛否の投票などを行う。

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2012/6/26	2014年開催の国際数学者会議International Congress of Mathematicians (ICM 2014)で与えられるフィールズ賞、ガウス賞などの各賞の受賞候補者について審議を開始した。
2012/5/15 - 2012/6/1	マダガスカルとマレーシアのIMU Associate Member加入についてe-mail会議で審議を行い、賛成することに決定した。
2012/3/21	新規に発足したIMU分科会の第1回総会を開催した。委員長は互選により小澤徹氏(早稲田大学)に決まった。
2011/12/2	IMUの将来の予算案についての理事会の提案につてe-mail会議により審議を行い、賛成することに決定した。
2010/7/16	e-mail会議においてIMUの恒久的事務所設置に賛成すること及び、その住所の設定に関するIMUでの投票については日本代表団に一任を決定。総会ではベルリン事務所に投票し可決される。
2010/2/26	2010年IMU総会への日本代表団をe-mail会議で決定。
2009/10/30--12/4	フィンランドのグループIIからグループIIIへの昇格をe-mail会議で賛成することに決定。アフリカ数学連合のIMUへの団体加入に賛成を決定。
2009/8/19--11/8	次期(2011-2014)のIMU理事として三輪哲二氏(京都大学)の推薦をe-mail会議で決定。
2009/5/28-6/23	MUのCDC(発展途上国委員会)改組に関する理事会提案の審議をe-mail会議で行い理事会提案に賛成することを決定。
2009/5/23--7/13	タイ国の連携加盟国としてIMU加盟についてe-mail会議で審議し賛成することに決定。

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

日本数学会の会報等を通じて、IMUの活動とICMのニュース等を報告している。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

日本数学会では、本委員会と連携してIMUに協力している。特に、発展途上国における数学研究の発展を目的として、毎年IMUに寄付を行っている。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

2014年国際数学者会議はソウルでひらかれる。それとも連動して、韓国、中国等と連携したアジア地域における国際的な活動を行う必要があるであろう。